

## 第3回宗像市行財政改革推進委員会議事録

日時	令和5年8月8日(火) 14時00分～	会場	304会議室
委員	■奥 友希    ■下田 真也    ■高山 國敏 ■峯 信一    ■雪松 直子    ■米本 昌弘 (五十音順、敬称略)		
市	■堤経営企画部長 (事務局：財政課) ■安部    ■山本    ■三淵		

### 1 開会あいさつ

### 2 報告事項

#### (1) 第4次宗像市行財政改革アクションプラン令和4年度実施結果報告書(案)について

##### 【事務局】

■ 第4次宗像市行財政改革アクションプラン令和4年度実施結果報告書(案)について説明

以下、質疑応答等

##### 【委員】

10ページ「2-1-1-事務事業の適正化」の取組内容等に記載がある「実施計画」とはなにか。また、効果額の根拠の文章をもう少し読み取りやすいように、記載の変更を提案するがいかがか。

##### 【事務局】

ここでいう「実施計画」とは、来年度の事業について計画を立て、予算の査定以前に事業内容の精査を行っている作業のことを指している。今年度はちょうど今の時期にその作業を各課と経営企画課で実施しているところである。

効果額の根拠については、読み取りやすいように修正を行う。

##### 【委員】

17ページ「3-1-1クラウドファンディングによる財源の確保」に直接関係しないかもしれないが、今年の10月からふるさと納税の制度が改正すると把握している。この制度改正は宗像市にとって、またこのプランに対して大きな影響が出るのか否かを教えていただきたい。

##### 【事務局】

ふるさと納税に関しては、ニュースでも取り上げられているとおり、全国各地で返礼品合戦となっている状況が続いている。今回の制度改正はいわゆる抜け穴をなくすための改正である。現在宗像市では、ふるさと納税で16億円ほどの財源をいただいている。寄附の多い自治体は数百億の寄附をいただいているところもあるが、宗像市の考えとしては、今までどおり、総務省の制度の中で着実にやっていくつもりである。ここ数年は、地場の企業と一緒に実施しながら、ほぼ横ばいの寄附額をいただいている状況であり、ふるさと納税という制度がなくなる限りは、財源としては大きな影響はないと考えている。

#### 【委員】

同じく「3-1-1クラウドファンディングによる財源の確保」について、特記事項で、「プッシュ型委託料は11件、9,700千円から…」という表記があるが、効果額の根拠にある「②プッシュ型委託料2,904,000円」の金額との違いは何か。また、令和3年度の実績から大きく効果額が下がっているが、理由を教えてください。

#### 【事務局】

特記事項にある9,700千円については、プッシュ型委託による寄附額の金額であり、わかりやすいように修正を行いたい。また、効果額については、令和3年度に大口の寄附が一件あった分が、令和4年度との差額に表れている。

#### 【委員】

4ページ「1-1-2職員の能力向上に関する取組み」に関係するが、行政改革とは職員の資質向上も大切だと考えている。取組内容に宗像ワンチームプロジェクトを立ち上げたという記載があるが、実際に何についてのプロジェクトを2つ立ち上げたのか。

若い職員が意欲をもって業務を行っていくためにも、このようなプロジェクトを継続的に行っていくことが大切だと思うがいかがか。

#### 【事務局】

まず1つは広域行政で行っている清掃工場の体制について考えるプロジェクトについて、若手の職員が集まり調査研究を行った。もう1つは、地域手当を含めた職員の給与の研究についてのプロジェクトで、他市町村と生涯賃金や、地域手当の支給状況等について差が出ている状況の調査を行ったものである。いい人材を確保していくためにも必要な取組みであると考えている。

特にここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、職員の仕事のやり方が変わってきている。市役所職員は今まで市民と現場で協働を行うことを大切に考えていたが、新型コロナウイルス感染症によってテレワークの実施やオンライン会議など、人との触れ合いの減少も生まれており、様々な弊害が出てきた。このワンチームプロジェクトで若手職員の現場での力を向上させたいという側面もある。

#### 【委員】

今回の報告書でも新しく横文字となる言葉が増えてきている。日本語に変えられるものや、用語の説明があったほうがわかりやすいと感じる。どこまで説明を行うかのルールがあるならそれに則って行っていただきたい。また、各プラン効果目標の合計部分が「Total」という表現になっているが、できるだけ横文字を使わない統一も考えてはいかがか。

#### 【事務局】

厳密なルールはないが、必要な用語の解説は対応したい。横文字の表現についても、必要に応じて対応していきたい。

#### 【委員】

17ページ「3-1-1クラウドファンディングによる財源の確保」においての、企業版ふるさと納税の寄附ケースはどういうケースがあるのか。

#### 【事務局】

ケースとしては2つあると考えている。宗像市にもともとゆかりがある企業が興味を持つもの、また自治体のそれぞれのテーマ、宗像市であれば脱炭素等が企業の考えとマッチしているものがある。

#### 【委員】

本委員会では令和4年度実施結果報告書（案）の他に説明用として概要を作成しているが、宗像市のホームページを確認すると、概要が掲載されていないように見えた。わかりやすく作成したものであるので、あわせて掲載してはいかがか。

#### 【事務局】

現在は、この行財政改革推進委員会に関するページと、実施結果報告書に関するページが存在し、委員会に関するページには委員会の説明資料として概要版を掲載している。完成した実施結果報告書のページには概要は掲載していないが、今後は掲載を考えたい。

#### 【委員】

9ページ「1-4-3 公用車の効率的な運用及び集中管理車両台数の抑制」の評価について、数値目標が掲載されているが、令和3年度までの数値目標になっており、令和4年度以降は単年で考えるとプロセスを追っていくように見える。このプランでの今年度の評価の判断方法を確認したい。

#### 【事務局】

令和3年度までは数字の評価を追いながら定量評価にて評価を実施した。令和4年度以降はプランでの数値的目標はなく、実際のプランに対する動きをしっかりとつかんでいく必要があり、定性評価で実施を行った。

#### 【委員】

このアクションプランは令和2年3月に作成されたものではあるが、新型コロナウイルス感染症もあり状況が変わってしまっている。その状況の変化によって、それぞれのプランによっては目標と実績が乖離してしまうものが出ている。アクションプラン策定当初の目標を追いかけることは必要であり、やらなければいけないことではあると思うが、どうしても目標に届かないプランについて、その内容の変化を市民に説明するにはもう少し言葉が必要だと考える。

また、先ほど4ページ「1-1-2 職員の能力向上に関する取組み」の質問の時にも、事務局からの説明でも感じたが、各プラン、事業に対する思いのところをもっと記入すると伝わりやすいのではないかと感じている。例えば、状況が変わったから、ここを重点的にやっていきたい。等、メッセージ性を増やすことも考えてはいかがか。

#### 【事務局】

前回の委員会でも話にあがったが、現段階では策定時の評価方法で評価を行うことになっており、新型コロナウイルス感染症によって状況が変わったとはいえ、事務局主導でルールを変更することには差しさわりのあると考える。状況の変化によって、計画の5年待たずに途中でいったん修正をかける方法もあるが、このアクションプランにおいては当初から変更をしていないため、策定時の方法、目標で評価を行う必要がある。

職員の事業に対する思いの部分については、現在は各課の事業内容の集約を報告するに留まり、間接的な業務になってしまっているため、思いの部分が薄くなってしまっている。今後は、仮に目標に届かなかった部分でも、思いとして強く動いた内容をお伝えできるように表現を考えていきたい。

【委員】

11ページ「2-1-2公共交通の適正化」について、達成度は0%で続いているが、日の里地区で実施しているオンデマンドバスの効果が実証実験であったため達成度が0%となっているのか、それとも効果がないと判断をして0%としているのか教えていただきたい。

【事務局】

このプランの策定当初の目標として掲げていたものについては、「適正化による管理費用の削減額」「運賃改正による収入の増加額」としていたが、新型コロナウイルス感染症含め、様々な状況の変化から、当初の効果目標の対象額については効果が出ていないことから0%としている。ただし、日の里地区のオンデマンドバスの実証運行や計画策定に向けた業務をしっかりと行っている状況については特記内容でお伝えしている。

【委員】

数字の出し方も難しい部分があると感じているが、実績が出る状況になればしっかりと報告をお願いしたい。

【委員】

ひとつのプランの話ではないが、業務のICT化やペーパーレス等の内容が進んでいるように伝わってくる。まだICT化の過渡期ではあるとは思いますが、実際に業務を行っている職員の感覚を教えていただきたい。職員の年齢等によってICTへの慣れ易さは違うということは容易に想像できるが、その他の雰囲気かわかれれば教えていただきたい。

【事務局】

全体の感覚としては、ICT化のゴールに一気に向かっていきたいという思いはありながらも、少しずつ確実に進んでいるという感覚を持っている。職員の中には、デジタルに疎い職員も一定数存在はしている。

それとは別に、各課が導入している各種システムは基本的に宗像市独自のカスタマイズを行っていたり、各市町村独自の様式の申請書であったりする。そこを統一化したいという動きを今国が進めている。また、どうしても市民の方でも年齢層の高い人はシステムに不得手という状況が多く、特に福祉の分野では、県全体の事業の動きも多いため、宗像市独自にデジタル化を進めていくということは難しい。

ペーパーレスに関しては、内部の会議は各自の業務パソコンを会議室に持ち込むことで紙の印刷を減らしたり、電子決裁を推進することによって紙での決裁を減らしたりしており、順調に取り組めている状況である。

### 3 その他

議題は特になし。

【事務局】

■令和5年度は、協議予定もあるため、引き続き会議の開催について調整をお願いする。

【事前配布資料】

- ・(資料1) 第4次宗像市行財政改革アクションプラン令和4年度実施結果報告【概要】
- ・(資料2) 第4次宗像市行財政改革アクションプラン令和4年度実施結果報告書(案)
- ・(参考資料1) 第4次宗像市行財政改革アクションプラン